

～生後2ヶ月以上のお子様がいる保護者の方へ～

5種混合ワクチン予防接種のお知らせ

○対象年齢：生後2か月から生後90月に至るまでの間の者
(2か月児から7歳6か月児未満)

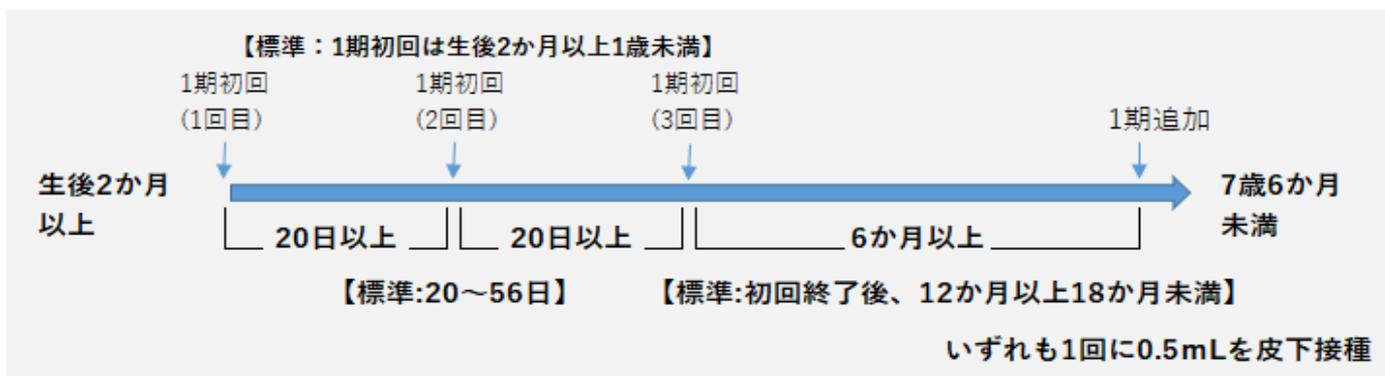
○接種回数：4回

○接種費用：全額公費負担(無料)

○接種場所：別紙の市内指定医療機関 または
本島内の地区医師会会員医療機関

※接種前に予約を行い、必ず親子(母子)手帳を持参してください。

■5種混合ワクチン予防接種接種スケジュール



1期追加のお知らせは、3回目の接種から
1年以上経過したお子様に通知しています！



5種混合ワクチンについて

5種混合ワクチンは、ジフテリア・百日せき・破傷風・急性灰白髄炎及びインフルエンザ菌b型による感染症を予防するワクチンで、令和6年4月に定期接種に導入されました。必要な接種回数(4回)を適切に接種すると、全ての接種者が5種類の病気を防ぐ十分な免疫(抗体)を獲得できます。

5種混合ワクチンで防げる病気は？

ジフテリア【D】

ジフテリア菌により発生する病気です。最後に報告されたのが1999年であり、現在となっては稀になりましたが、かつては年間8万人の患者が発生し、そのうち10%程度が亡くなっていた重要な病気です。

特に5歳以下や40歳以上の人で重症化しやすく、主に気道の分泌物によってうつり、のどなどに感染して毒素を放出します。この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで、眼球や横隔膜（呼吸に必要な筋肉）などの麻痺、心不全等をきたし、重篤になる場合や亡くなってしまう場合があります。

百日咳【P】

百日咳菌によって発生します。名前のとおり激しい咳をとまなう病気で、1歳以下の乳児、特に生後6か月以下の子どもは亡くなってしまうこともあります。

主に気道の分泌物によってうつり、乳幼児では咳のために呼吸ができなくなるために全身が青紫色になってしまうこと（チアノーゼ）やけいれんを起こすことがあります。また、窒息や肺炎等の合併症が致命的となる場合があります。

ポリオ（急性灰白髄炎）【IPV】

脊髄性小児麻痺とも呼ばれ、ポリオウイルスによって発生する病気で、子ども（特に5歳以下）にかかることが多いです。

主に感染した人の便を介してうつり、手足の筋肉や呼吸する筋肉等に作用して麻痺を生じることがあります。永続的な後遺症を残すことがあり、特に成人ではなくなる確率も高いものとなっています。

感染した場合、弛緩性（しかんせい）麻痺を起こす割合は1%以下とされていますが、麻痺性の急性灰白髄炎を発症した場合には、一般に2～5%の子どもが亡くなってしまうとされています。

破傷風【T】

破傷風菌により発生し、かかった場合に亡くなる割合が非常に高い病気です。以前は新生児の発生もみられましたが、近年は30歳以上の成人を中心に患者が発生しています。

主に傷口に菌が入り込んで感染を起こし、毒素を通してさまざまな神経に作用します。口が開きづらい、顎が疲れるといった症状から始まり、歩行や排尿・排便の障害を経て、最後には全身の筋肉が固くなり、身体を弓のように反り返らせたり、息ができなくなります。

Hib（ヒブ）

Hib感染症は、インフルエンザ菌b型という細菌から発生する病気で、ほとんどが5歳未満で発生し、特に乳幼児での発生には注意が必要です。

主に気道の分泌物により感染を起こし、無症状のまま菌を保有している場合もあります。この菌が進展すると重症化する可能性があり、生存した子どもの20%に難聴などの後遺症を残すと言われています。

5種混合ワクチンの副反応について

5種混合(DPT-I PV)ワクチン接種後に、**最も多くみられる症状は、接種部位の発赤（赤くなる）硬結（硬くなる）、腫脹（腫れ）**等です。そのほか発熱や下痢等が見られます。また、重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー様症状、血小板減少性紫斑病、脳症やけいれん等が現れることがありますが、極めてまれです。

お問い合わせ先

浦添市保健相談センター 健康づくり課 予防係

☎ 098-875-2100